



## ヨブ記

聖書の物語の中でも、もっとも強烈なもののひとつに「ヨブ記」があります。

ヨブは人望が厚く、信心深い高潔な人物で、順風満帆の人生を送っていました。財産と10人の優秀な子どもたちに恵まれ、結婚生活も幸せでした。誰もがうらやむ非の打ちどころのない生活を送っていました。

しかし、あるときサタンは考えます。「人生がうまくいっているヨブが神を敬うのは当たり前で、もし彼の人生がうまくいかなければ、彼の信仰心はあつという間に揺らぐはず」と。そして神はヨブの人生をいくらか混乱させる許可をサタンに与えました。サタンは、ヨブの全財産を取り上げ、7人の息子と3人の娘を殺し、ヨブ自身も病にしました。ヨブは、頭のとっぺんから足の裏までひどい皮膚病にかかり人々からのけ者にされました。

だが、それでもヨブは神を崇めるのをやめませんでした。ヨブは試練に耐え抜き、無慈悲極まりない罰を与えられても神に疑念を抱きませんでした。神はヨブに健康も、富も、子どもたちも、失ったものすべてを取り戻させました。神はヨブにあふれるほどの幸福を与え、ヨブは天寿を全うしました。

聖書のメッセージとして、「人間は不公平さに耐えなくてはならない。不公正さは永遠に続くわけではない。どんな出来事にも人間の限られた能力では理解できるはずのない正当な理由が隠れている」と。

広い考えの中ではそうだと思います。しかし、私は善い行いは最後に報われ、悪い行いには罰が下るといふ掟であってほしいと思います。世界が公正であってほしいと願います。

ただ、世界に公正を保つシステムは存在しません。私たちの日常生活でもそうだと思います。その事実を思い切って受け入れるのも、幸せに生きる条件の一つかもしれません。つまり、**自分の日常に意識を集中することが大切だと思います**。そして、何か不運な出来事に見舞われたとしても、その人の人間性は関係ないので、不運や失敗は冷静に落ち着いて受け止めることが大切になります。逆にびっくりするくらいうまくいったときも同様に冷静に受け止めることが重要です。

よく失敗や不運な出来事に見舞われたとき、ついつい心の声を大にして発言してしまうときがあります。それをその人の本音と言うこともあります。でも本当の本音でしょうか。私たち自身、自分のことを本当にわかっているのだろうかと思うときがあります。ついつい心の声を発したとき、チグハグな感じに見えてしまうのはそういうことだからかもしれません。そしてその姿は、自分を滑稽に見せることにもなります。それがいわゆる感情論というものであり、お互い攻撃し合います。

生徒のみなさんを見ていると、落ち着いて行動している姿に感心します。朝の礼拝で、説教とパイプオルガンを聴き、1日を落ち着いてスタートすることが本校の伝統です。